

第4回札幌市ウォーカブルビジョン  
策定検討委員会

議 事 錄

日時 令和7年(2025年)7月29日(火)10時00分開催

場所 札幌市本庁舎12階4・5号会議室

発言者	発言内容
石井 政策推進担当課長	<p>定刻前ではございますが、皆さまお揃いですので、これより第4回札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会を開催いたします。</p> <p>今年度から事務局を務めます、札幌市まちづくり政策局政策企画部政策推進担当課長の石井と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>委員の皆さんにおかれましては、お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>改めまして、本委員会は、「札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会設置要綱」に基づき設置しております。</p> <p>本委員会は一般の皆さんにも公開しており、会議終了後には個人に関する情報を除きまして、会の次第、出席者氏名、発言者等を記載した議事録を公開予定ですので、あらかじめ御了承ください。</p> <p>それでは事務局を代表しまして、札幌市まちづくり政策局政策推進担当部長の須志田より、御挨拶申し上げます。</p>
須志田 政策推進担当部長	<p>札幌市まちづくり政策局政策推進担当部長の須志田でございます。本日はお忙しいところ「第4回札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会」に御参加いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>札幌市では、居心地が良く歩きたくなるまち「ウォーカブルシティ」を推進するため、官民一体となって取り組む際の指針となる「(仮称)Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」を令和7年度末に策定する予定です。</p> <p>このビジョンの策定に向けて、令和7年3月に開催した第3回検討委員会では、2月～3月にかけて実施した冬のサッポロウォーカブル実証実験の結果や、ビジョンの骨子案について説明させていただき、委員の皆さんからの貴重な御意見をいただいたところです。</p> <p>本日の第4回検討委員会では、全4章から構成される「(仮称)Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」の素案につ</p>

	<p>いて御確認・御議論いただくことを予定しております。今回のビジョン素案のポイントとして、Well-Moving City SAPPOROというコンセプトが示す、札幌市が目指すまちの姿をより明確化したことに加え、3つのリーディングプロジェクトを新たに整理いたしました。</p> <p>限られた時間の中ではございますが、ぜひ皆さまの専門的な見地からの忌憚の無い御意見を頂戴できれば幸いでございます。</p> <p>本日はどうぞ、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>石井 政策推進担当課長</p>	<p>続きまして、本日御出席の委員の皆さんについて御紹介いたします。御所属とお名前を読み上げますので、恐れ入りますが御着席のまま御一礼をお願いいたします。</p> <p>室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域 土木工学ユニット 教授 有村 幹治(ありむら みきはる)委員長。</p> <p>日本大学理工学部建築学科 准教授 泉山 墨威(いずみ やま るい)委員。</p> <p>株式会社commons fun代表 林 匡宏(はやし まさひろ)委員。</p> <p>株式会社Groove Designs代表 三谷 蘭子(みたに まゆこ)委員。</p> <p>北海道科学大学未来デザイン学部人間社会学科 准教授 道尾 淳子(みちお じゅんこ)委員。</p> <p>委員の皆さん、ありがとうございました。</p> <p>なお、本日は、大藪(おおやぶ)委員、山崎(やまざき)委員のお二人につきましては、御都合により御欠席されております。</p> <p>また、札幌市からは、先ほど御挨拶申し上げた政策推進担当部長 須志田のほか、都心まちづくり推進室長 二宮、都市計画部長 小林、総合交通計画部長 松本、交通計画課長 江澤、以上5名が参加しておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>なお、松本につきましては、公務の都合により途中退席させ</p>

	<p>ていただきます。松本の退席に伴い、以降につきましては、江澤が引き継ぎいたしますことを併せて報告いたします。</p> <p>続きまして、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>お手元にある資料について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次第 1枚</li> <li>・資料1 出席者名簿及び座席表 1枚</li> <li>・資料2 「(仮称)Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」概要素案 1枚</li> <li>・資料3 「(仮称)Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」本書素案 1部</li> <li>・資料4 欠席委員コメント 1枚</li> </ul> <p>を、それぞれ配布しております。不足の資料はございませんか。</p> <p>もし途中で不足にお気付きになった場合は、お申し出いただきますようお願いいたします。</p> <p>なお、この資料3「本書素案」については現在庁内において精査中であること、資料4「欠席委員コメント」については議事進行上の参考書類として扱わせていただくことから、委員の皆さま限りの配布とさせていただいておりますので、あらかじめ御了承願います。</p> <p>また、報道各社におかれましては、意見交換の時間以降の撮影、録画等の行為は御遠慮いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、以降の議事進行につきましては、有村委員長にお願いしたいと思います。有村委員長、よろしくお願ひいたします。</p>
有村委員長	<p>皆さん、おはようございます。室蘭工業大学の有村です。</p> <p>本日の主な目的としては、1回、2回、3回の委員会を通して我々が意見・コメント等をしてきた「Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」の説明をいただいた後に、皆さまから意見をいただくことが今回のミッションになります。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>

	<p>実は対面初めてですよね。遠隔でかなり活発な意見をいただいていたところですけれども、対面ということで逆に緊張しているようなところがあると思いますが、今日もどうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、早速議題に入らせていただきます。まず事務局から、資料2「(仮称)Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン概要」(素案)の説明をお願いいたします。</p>
<p>石井 政策推進担当課長</p>	<p>「『(仮称)Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン概要』(素案)」について御説明いたします。資料2、A3版の概要をご覧ください。</p> <p>まず、本ビジョン第1章、1背景でございますが、近年、世界的に都市空間を車中心から人間中心へと転換させる取組が進展しており、国内においても、札幌市を含む392都市が「ウォーカブル推進都市」として登録されております。</p> <p>また、上位計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」では、重要施策として「ウォーカブルシティの推進」を明記しており、人口減少による都市機能の低下など、様々な課題に備えつつ、これまで以上に都市空間の持つ多様な価値に着目し、質的向上を図っていく必要があります。</p> <p>これらの背景を踏まえ、札幌市が目指すウォーカブルな都市像を示すビジョンを策定することといたしました。</p> <p>ビジョンの策定にあたっては、その目的を、「都市空間を車中心から人間中心へと転換させ、歩かざるまちをつくり、人々の暮らしをより良くしていくため」と定めております。</p> <p>この「歩かざるまち」とは、歩いて楽しいといった歩行だけではなく、自転車や公共交通機関の利用も含めた、自家用車に過度に依存しないまちを表しており、意識せずとも自然と歩いてしまうような都市空間を、北海道弁を交えて表現したものでございます。</p> <p>また、対象範囲は札幌市全域とし、主にパブリックスペースである道路や公園、広場等の公共的空間を対象としており、目標年次は、現在策定作業中の「第3次都市計画マスター」</p>

ラン」や「第3次都心まちづくり計画」と合わせ、概ね20年後にある2045年としております。

次に、本市の課題を「歩かさるまち」の観点から、緑で囲まれた5項目に整理しました。

1つ目の「健康(ウェルネス)」については、札幌市の健康寿命は他の政令市と比較して短いため、身近な運動である歩行等の身体的活動を増やすこと。

「安全・安心」については、近年増加がみられる自転車対歩行者の事故への対策や、子どもを守る都市環境の構築。

「交流・にぎわい」については、人口減少や高齢化、町内会加入率低下が進む中で、地域活動の担い手確保や、交流機会の創出。

「移動」については、障がいを抱える方々や運転免許を持たない方々、観光で訪れる方々も含めた、誰もが円滑に移動できる公平性の確保。

最後に「環境」については、札幌市は2050年までのゼロカーボンシティ達成を目標に掲げていることから、移動の脱炭素化や都市緑化の推進、コンパクトな都市づくりを課題としております。

以上の課題の解消に向け、4検討経過にあるとおり、市民参加型の実証実験や本検討委員会等の実施を通して検討した結果、一番下の5まとめになりますが、改めてパブリックスペースの持つ価値を見直し、都市空間を「歩かさるまち」に転換することで、市民の暮らしのものをより良くしていくことが重要であり、都市空間における既存の価値観を転換させるには、札幌市独自の新たな都市空間コンセプトを設定し、札幌市が目指す姿を明確化する必要があると結論付けました。

ページ右上を御覧ください。

第2章では、目指すまちの姿について説明いたします。

第1章のまとめを踏まえ、札幌市の都市空間コンセプトを、「Well-Moving City SAPPORO」と設定いたしました。

このコンセプトの目指すところは、緑の囲みの後半にありますとおり、「いつでもどこでも誰もが心地よく、心も一緒に動くま

ち、札幌」であります。

そして、2重点方針において、「Well-Moving City SAPPORO」を明確に推進するため、重要な要素を5つに分類して重点方針といたしました。

なお、今後は5つの重点方針について評価する手法の検討を予定しております。

さらに、資料右下では、コンセプトと重点方針に基づき札幌市の目指す姿を、3つのエリアについて、ペースも用いて具体的に記載しました。

「都心」については、札幌の「顔」であり都市のアイデンティティと国際競争力を象徴する中枢的空间として、「巡るたび、また巡りたくなる好奇心の積もる街並み」を。

「地域交流拠点」については、主要な交通結節点など、人々の交流が生まれ、生活圏域の拠点となるエリアとして、「行きも帰りも寄り道せずにいられない、にぎわい、出会いのターミナル」を。

「住宅市街地」については、多様なライフスタイルを支え、より自然に近く、日常の安心感が重要となるエリアとして、「自分らしく、気兼ねなく、出かけ愉しむ、自然が彩る心地よい暮らし」を、それぞれ目指します。

なお、都心につきまして、前回までの検討委員会において面的な検討状況の共有をしていただきたいとの御意見があつたことを踏まえ、現在の札幌市の検討状況を紹介いたします。

委員のお手元に配布している冊子、資料3「『(仮称) Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン』本書(素案)」の35ページを御覧ください。

本ビジョンと並行して策定の検討を進めている、「(仮称)第3次都心まちづくり計画」では、都心のウォーカブル施策の推進にあたっての基本方針や空間形成指針等を示す予定となつております。

具体的には、回遊・滞在機能と交通機能のバランスの適正化などに配慮しつつ、都心全体の回遊・滞在の視点での主要検討路線等を位置付けております。

上の図は、都心部における主要検討路線等を示しており、薄橙色から赤色へコントラストが増すにつれて、その重要度が高まるものとして表現しております。

また下の図では、主要検討路線等で何を行うかという考え方を示しており、人中心の魅力的なストリートの実現に向けた空間形成、四季を通じて安全・安心な歩行環境の充実のための歩行者ネットワークの拡充、歩行者・自転車の通行等に配慮しつつ既存の道路空間の有効活用を図るなど、幅広い取組みに向けた検討を進めております。

資料2の概要にお戻りいただき、裏面を御覧ください。

第2章で示した「Well-Moving City SAPPORO」の実現に向けて、第3章では「都心」、「地域交流拠点」、「住宅市街地」エリアにおける取組みや手法例のほか、各エリアにおけるリーディングプロジェクトについて説明いたします。

まず、「都心」、「地域交流拠点」、「住宅市街地」それぞれのエリアで実施する取組みや手法例については、第2章で掲げた5つの重点方針ごとに分類し、表のとおり整理いたしました。

例えば、都心エリアにおける「歩くことが楽しく、健康に暮らせる」では、建物低層部等のにぎわい用途導入や休憩・滞在空間整備の取組みを記載するなど、マトリクス的に表現を行っております。

この度の説明では、全ての取組みの解説は割愛させていただきますが、お手元の本書ではエリア毎の特徴を踏まえた上で各重点方針に資する手法の概要や効果を掲載しております。

次に、リーディングプロジェクトですが、「都心」、「地域交流拠点」、「住宅市街地」の各エリアから、それぞれ先行的な取組みをリーディングプロジェクトとして位置付け、積極的に推進します。

都心の「大通公園周辺」については、平成元年の再整備から30年以上が経過し、施設の老朽化が進むとともに公園に求められる役割も変化していることから、魅力ある公園づくりに向けた検討を進めています。また街区・道路・公園の一体感が

ある居心地がよく歩きたくなる空間形成に向けた検討を進めます。

次に、地域交流拠点の「真駒内」については、駅前地区において、都市機能の集積や快適な歩行空間の創出を図るなど、南区全体の魅力向上に寄与する取組を進めます。また、駅からの人の流れを真駒内地域の各地へ誘導することにより、回遊性を向上させるなど、周辺地区への波及・展開を目指します。

最後に、住宅市街地の「本郷商店街」については、札幌市初のショッピング・モール事業（道路整備）にて整備した滞留空間等、歩行者に配慮した取組みを行っています。今後は札幌市初の「歩行者利便増進道路（通称：ほこみち制度）」指定も見据え、商店街とともに地域ニーズを踏まえたにぎわいの創出について検討を進めます。

続いて、ページ右上を御覧ください。

第4章では、本ビジョンの推進体制と支援策について記載しております。

本ビジョンで示すコンセプトの実現に向けては、行政主導のみで実施することなく、産学官民の強みを生かし合う「共創」が重要となります。

また、パブリックスペースも特性や規模が様々であることから、基本的な役割分担を明示した上で、対話と実践を通じて共創関係を構築する「産学官民共創プラットフォーム」（共創を支援する場や仕組み）の設置を検討いたします。

この枠組みにおける行政・札幌市の役割として、右手に記載しておりますが「推進計画の策定と計画的なハード整備」、「横断的な推進体制の構築と推進フローの明確化」、「データの収集、オープンデータ化」、「規制緩和と支援制度の構築・運用」、「空間活用や官民共創に係る人材育成」を行ってまいります。

さらに、産学官民の「共創」を進めていく上で、特に行政が実施することで効果を発揮する支援策を、「整備/活用」、「手続き/許認可」、「担い手確保/育成」の3つの軸にして、具体的な

	<p>支援策の構築・運用の検討を進めてまいります。</p> <p>このうち、「手続き/許認可」については、市民やエリアマネジメント団体等の方々がパブリックスペースを円滑に利活用できるよう、手続きや基準をまとめた公共的空間活用ガイドラインを、今年度、策定する予定でございます。</p> <p>つづいて、3今後のロードマップです。本ビジョンは、令和8年から令和27年までの20年間を見据えており、実現に向けては、社会情勢や技術革新の変化に柔軟に対応しながら、段階的・戦略的に推進していく必要があることから、計画期間を「短期」、「中期」、「長期」に区分し、それぞれのフェーズに応じた取組みを進めます。</p> <p>まず、「短期」については、本ビジョンの推進計画にあたる「Well-Moving Plan」の策定・推進に取り組み、当該プランに具体事業を紐づけ、市全体の中期実施計画と連動した運用を目指すほか、前述したリーディングプロジェクトの推進、産学官民共創プラットフォームの設置及び支援制度の構築・運用を行ってまいります。</p> <p>次に、「中期」については、効果検証を踏まえた推進戦略の見直しを行うほか、リーディングプロジェクトを含む具体的な取組を推進してまいります。</p> <p>最後に、「長期」については、都市トレンドや社会情勢等の変化を捉えた長期的なビジョンの見直しに取り組みます。</p> <p>なお、本ビジョンの運用にあたっては、ビジョンで示す都市空間コンセプトや、まちの目指す姿を保持しつつも、実践と改善の循環を基本に、社会情勢や技術革新、市民ニーズに応じて継続的な見直しを行いながら推進してまいります。</p> <p>以上で、私からの説明を終わります。</p>
有村委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今事務局から1章から4章まで一括して御説明いただきましたが、まずは第1章策定の背景と目的、第2章目指すまちの姿について、意見交換に入りたいと思います。</p> <p>冒頭で事務局からお伝えしましたとおり、報道各社におかれ</p>

	<p>ましては、以降の撮影、録画等の行為はお控えください。また、意見交換に先立ち、本日欠席の大藪委員、山崎委員から欠席コメントが寄せられているとのことですので、事務局から紹介をお願いいたします。</p>
<p>石井 政策推進担当課長</p>	<p>大藪委員と山崎委員の欠席コメントにつきましては、資料4のA4資料を御覧ください。</p> <p>大藪委員からは②の方になりますが、第2章において、5つの重点方針にやや唐突感がある。このダイアグラムへの共感を得ることが重要と考えると、それぞれ簡単な説明を入れたほうがよいのではないか、とのコメントをいただいております。</p> <p>事務局といたしましては、今後、主に市民向けに作成する政策パンフレットにおいて、丁寧な補足説明をいれるなどして、市民からの共感が得られるビジョンにしていきたいと考えております。</p> <p>また、山崎委員からは、③のところでございますが、今後Well-Moving指標を開発する場合、「50%の市民が月に1回は"街"にでかける(オデカケビリティ)」「10%の市民が身近な山でハイキングをする(ハイカビリティ)」「30%の市民が1年に1回は移動中に屋外で久しぶりに友人・知人と出会う(オヒサビリティ)」といった3~5個程度の分かりやすい目標に集約するのがよいのではないか、とのコメントをいただいております。</p> <p>こちらの評価手法につきましては、まさに現在検討中のため、今後の検討の参考とさせていただきたいと考えております。</p> <p>コメントにつきましては以上です。</p>
<p>有村委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、ここから意見交換を行いますが、御意見、御質問のある方は挙手いただいてからお話いただくようにお願いいたします。</p>
<p>道尾委員</p>	<p>道尾です。御説明ありがとうございました。</p> <p>A3概要版のところの第3章の中で気付いた点なのですが、最初の歩くことが楽しく健康に暮らせるであるとか、札幌らしく</p>

	<p>四季を通して歩きたくなるに対するマトリクスについて、これは都心と地域交流拠点、どちらにも当てはまると思います。</p> <p>最初の箇条書きの部分の建物低層部等の～という言い回しと、札幌らしく～のところの地上地下の重層的な歩行ネットワーク、この中に地上に該当するかもしれません、空中歩廊など、都市再生で行ってきた既存の資源の手法というものもあると思うので、その戦略が入っていると、札幌の既存のまちづくりとも整合するのではないかと考えます。</p>
<p>二宮 都心まちづくり推進室長</p>	<p>都心まちづくり推進室 二宮です。</p> <p>札幌市では「都心における開発誘導方針」というものを策定しており、その中で地上・地下の重層的な回遊ネットワークの形成を掲げております。</p> <p>今、お話をありました空中歩廊、いわゆる空中の部分の接続について、容積率の緩和などの評価を用いて誘導していくという方針になっておりますので、都心においては手法例として含まれるものと考えております。</p>
<p>三谷委員</p>	<p>御説明ありがとうございました。</p> <p>全体へのコメントなのですが、これまでの議論を汲み取っていただいている、非常にわかりやすくまとまっていて、すごく良いなと思いました。</p> <p>課題のところも、前回の議論を踏まえて改めて丁寧に紐解いていただいたのだと感じまして、今回Well-Movingということで、体も心も一緒に動くというところがコンセプトとして非常にいいコピーにまとまっているなと思いました。</p> <p>移動のところですか、それに含まれる環境のことですか、いろいろと練り込んでいただいている、今後20年間のビジョンとしてふさわしい整理ができていると思いました。</p> <p>1章、2章についてということなので、2章の部分で5つの重点方針のところを、課題ですか、方針という形で、改めて整理をしていただいていると思うのですが、ぱっと見てわかりにくいというか、ポイントが多分、健康、四季、居場所というところだと思うんですけども、裏の表を見てもキーワードと取組みが</p>

	<p>どのように連動しているのかが分かりにくい気がしました。</p> <p>これも表現上の問題だと思いますが、少しブラッシュアップしていただけるといいと感じました。</p>
須志田 政策推進担当部長	<p>御意見ありがとうございます。ただ今、御指摘いただいた構成や表現の分かりにくいという部分については、御意見を踏まえまして検討してまいりたいと思います。</p>
有村委員長	<p>ありがとうございます。冒頭、1章2章についてまず御意見を、とお伝えしたところですが、不可分というこで3章4章に触れていただいても問題ないです。この委員会らしいので。</p> <p>今までこの委員会をずっとオンラインでやってまして、かなり活発な意見が出ておりました。それで、さきほど山崎委員の欠席コメントで、おひさしひリティという言葉、造語なんですけれども、街中に出ると久しぶりに人と会えるとか、こういったものを何とか指標化できなかといったお話をされていて、これはなかなか難しいかなとは思いました。アンケートで取るにしてもかなり厳しいかなと。</p> <p>ただ、パネル側の人流データだと1年間丸々取れる可能性もあるんですよね。個人の動きを匿名化した位置情報データ等を使うと、本源需要と派生需要という言葉を我々使いますが、本源需要として山登りに行くとか、街中に遊びに行ったとか、非常に全体の発生量とすると少ない一方で、確実に5回に1回くらいは行動が見られるなど、そういった行動を指標化し、どのような方法で観測するのかというところはまだ議論の余地があるのかなと思いながら山崎委員のコメントを見ておりました。</p> <p>私からも一つよろしいでしょうか。本郷商店街のお話が50ページに載っておりまして、すごく面白いなと思いながら見ておりました。</p> <p>元々、白石の本郷商店街はショッピングモール事業を行っていましたが、令和2年にほこみち制度を使ってベンチ・テーブル等を入れたときに、この変化量といいますか、これによってどう活性化していったのかといったストーリーですか、ヒアリ</p>

	<p>ング結果でも変わっております。</p> <p>本当にこういったものの効果が出てくる場合、第4章の推進体制のところだけではなくて、民のところ、商店街がこういったインフラをうまく使うことで、もう一度再活性化していくようなことができるのであれば、当然、他の場所でも実施する可能性がありますよね。</p> <p>ということで、すごく面白いケーススタディだなと思いながらこの50ページ見ておりましたので、本郷商店街のことについて教えていただければと思います。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>御意見ありがとうございます。令和2年度に、いわゆるほこみち制度という施策が始まりまして、まさにこれからというところで、リーディングプロジェクトで位置付けたものであります。</p> <p>リーディングとして他に水平展開していくと、そういった位置付けでございますので、制度の運用自体はこれからでございますが、しっかりとこの得られた知見などを他のエリアに波及させていくということを考えております。</p>
<p>有村委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>おそらく商店街の中のコミュニティも世代交代していくタイミングがあるのかなと思って見てるところがあります。</p> <p>他の都市でも若手の方々が改めて商店街の魅力を高めて活性化したいということで、インフラ、ほこみちを使えないんですかというような御質問をいただくこともあります。</p> <p>この本郷商店街の取組みがリーディングということであれば、どのようにモニタリングしていくのかという点について、このビジョンの中でどの程度踏み込んで書くしていくかということがあると思います。そこをもう少し触れていただけると非常にありがとうございました。</p>
<p>泉山委員</p>	<p>取りまとめいただき、ありがとうございます。「歩かさる」といった独自の造語が含まれており、オリジナリティのある計画らしくて非常に良いと思います。また、海外の先進事例も交えてよく押さえられていると感じました。</p> <p>15ページのコラムに関連して、「ウォーカブルシティ」の定義</p>

	<p>についてですが、現状は事例紹介に頼りすぎている印象があります。国交省の定義も含め、もう少し一般論としての整理が必要ではないでしょうか。特に今後、市民の方々にPRしていく際、「歩く」という言葉が強すぎると、「車を使えなくなるのではないか」という懸念が生じがちです。「車を排除するのではなく、移動手段の選択肢の一つとして位置づける」、「目的地の近接性や、歩いて楽しい、安全・快適といった要素が重要である」といった点を、コラムの前段などで補足しておくと良いと思います。</p> <p>また、5つの重点方針について、図の中の文字がぱッと目に入っこないため、キーワードの表現も含めて検討いただきたいと思います。</p> <p>最後に、26ページのパースについてですが、札幌とはいえる将来の気候変動(猛暑)を考慮すると、現状の絵は少し暑そうに感じられます。すでに40度近い気温も観測される中、例えばピロティや1階部分の日陰空間の確保など、暑熱対策への意識も盛り込まれると良いのではないかでしょうか。</p> <p>質問ですが、都心部における駐車場の集約化や適正配置については、すでに取り組まれているのでしょうか。</p>
松本 総合交通計画部長	総合交通計画部長の松本です。駐車場の整備地区というのを都心に設けてまして、その中で適切な配置をするよう促していましたとか、あとは全体的に届出制ということで、どこに駐車場があるか随時届出をいただくようにしています。
二宮 都心まちづくり推進室長	都心まちづくり推進室の二宮です。 都心全体でそういう方針があるかというと、なかなか難しいところではありますが、例えば地区計画の方針の中で、この通りには駐車場の出入口を設けないですとか、歩行者優先となるよう歩道上に空地を設けるですとか、そういったルールをエリアごとに定めていくというのが実情でございます。
泉山委員	わかりました。ありがとうございます。そうしますと、35ページの「主要検討路線」と、そこに面する駐車場をどう扱うかについては、既存のものも含め、今後テクニカルな検討が必要にな

	<p>ると思います。やはり駐車場のコントロールなしにはウォーカブルな環境は実現できないと考えますので、その点は非常に気になります。</p> <p>また、61ページの支援関係について、「産学官民」とあります、「官」以外の主体に対しては、資金的な支援がないと活動継続が難しい側面があります。最近では金融制度やファンドも出てきていますが、札幌はエリアマネジメント団体が非常に成熟している一方で、それ以外の地域の団体や、これから立ち上がる「エリアマネジメントの卵」のような組織をどう育成するかという観点からも、資金的な支援の仕組みがあるとさらに良いと考えます。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>御意見、御指摘ありがとうございます。まずウォーカブルの定義につきまして、歩く・ウォークの部分がちょっと強すぎると我々自身も感じているところであったため、概要版の位置付けのところで「歩かさる」という言葉を使い、自動車に過度に依存しない街ということで、一旦定義をしてございます。「歩かさる」というのは、北海道弁で、自然に歩いてしまう、そういうことを表現できればと思っております。</p> <p>先生の御指摘を踏まえ、本書の方でもそういった部分についてもしっかりと書き込んでいきたいと思っております。</p> <p>それから、重点の5つのダイアグラムにつきましては、先ほど御指摘いただいたとおりに見直してまいります。</p> <p>また、26ページのパースについて少し暑そうだという御意見について、北海道も北見では40度近くになったり、札幌でも35度になっていたりということで、昔は避暑地と呼ばれていた地域がそうではなくなってきているという状況にあります。</p> <p>数十年後、温暖化はどこまで進んでいるのか、そういった中ではピロティなどの日陰が非常にまちづくりの中でも重要な部分になってくる可能性がございますので、パースをどこまで直せるか検討したいと思います。</p> <p>それから、本日午後もシンポジウムを主催させていただくのですが、札幌市では各拠点でエリマネの活動がかなり活発化</p>

	<p>おります。</p> <p>御指摘の金銭的な部分については、やはり独自のエリマネの活動だけで収益性がなかなか取りづらいという側面があるため、どういった形で持続可能性を担保していくかというのは我々も課題と感じております。</p> <p>現時点では、明確にお答えすることには至らないのですが、その課題感というのはしっかりと我々としても認識して取り組んでまいりたいと思います。</p>
有村委員長	<p>ありがとうございます。3章、4章のところの方から議論しやすいということもありますが、1章、2章に関して方向性として何か問題等はございませんでしょうか。</p>
道尾委員	<p>今のビジュアル、画像の対応についてですが、言葉として強いフレーズになった時に、それを絵で補足する構成になっていると思います。</p> <p>例えば、第2章の都心を目指す姿、その都市のアイデンティティと国際競争力と言った時に、この2つの今のイメージペースというのが、それをイメージさせる絵なのかという疑問です。</p> <p>札幌の都市としてのアイデンティティであれば、クロスロードであったり、そこにレンガ色が少しあるのも良いと思いますが、国際競争力と言った時に、市民が考えるイメージブランド力の方が札幌市を魅力的に語っているような気もします。</p> <p>これはペースを俯瞰した目線なのか、それともウォーカブルな人目線なのかによっても、見えてくるものや描けるものが異なるっていう悩ましい問題なんだろうなと思いながらコメントしております。</p> <p>同じくですね、裏面に行った時に、先ほど本郷商店街の事例があったと思うんですけども、ここも2つ画像が採用されていて、どうしても右側の写真が、道路が見た目として大きく映る画角になっています。</p> <p>本郷商店街を歩くことを考えた場合は、歩道側、緑地帯側が焦点になってくると思いますので、画像のセレクトについても、もうひと調整していただけると文言と画像とのイメージの相</p>

	乗効果を狙えるのではないかと感じました。以上です。
須志田 政策推進担当部長	<p>ありがとうございます。都心の目指す姿の部分における国際競争力というのは、御指摘のとおりなかなか悩ましい部分であり、我々が都心でイメージするウォーカブルの視点を可能な限りのペースに表現しているところです。</p> <p>先生がおっしゃってる部分、どこまで表現できるかということを含めて考えていきたいと思います。</p> <p>さらにこの商店街の部分は、本書の方の写真との並びや入れ替えも含めて、分かりやすいように検討したいと思います。</p>
林委員	<p>はい、林です。ありがとうございます。</p> <p>全体的に非常にわかりやすくまとまったビジョンになっていて、素晴らしいと思います。大変お疲れ様でした。</p> <p>言葉一つ一つとってもすごくユニークで面白いなと思って見ております。「歩かさる」って分かりますか。僕はあまり分からぬですね。「歩かさる」と子どもたちは言うんですか。歩かさるなこの街と。</p>
須志田 政策推進担当部長	<p>北海道米のCMで、食べらさる、美味しいから自然に食べてしまうというのが、数年前から出てきて、これをイメージできている方は、なんとなく自然に歩いてしまうみたいなことが想起できるかなと思われます。</p>
林委員	<p>いいですよね。子どもたちがこれ歩かさるなあとか言うようになったらすごいなと思います。</p> <p>あと、コンセプトの中の言葉、この表面にある縁の枠の中もすごくいいなと思って見ておりました。特に心も一緒に動くまちというキヤッチコピーが入っているのも本当に大事な視点だなと思って見ていました。</p> <p>逆にこれが宙に浮かないようコンセプトの文言、方針、指標、これからだだと思いますが手法とかと連動して関係性が見えるようになるとすごくいいなと思っております。</p> <p>また心も一緒にというところですが、グッと入るなと思う一方で、どうやってそうなるのというところがきちんと言えていれば、とても面白いビジョンになるのかなと思って聞いておりました。</p>

	<p>例を挙げると、先日、新さっぽろでも社会実験させてもらった際には、学生が主導で運営し、プロの力を全く借りない形で行いました。事前告知もせず、科学館公園を歩く人に対してすごく気持ちいい時間を過ごしてもらおうという動機で実施しています。</p> <p>日常と非日常の間を行くような、社会実験でよく議論があると思うのですが、その間を攻めるっていうところが、プロのイベントではできない何とも言えない心地よさがありました。</p> <p>大学生と高校生が歩いてる人に対してちょっとカードゲームやりませんかみたいな声をかける。怪しいですよね。普通に行うとても怪しいんですけど、次の世代だからこそちょっと許される雰囲気の心地よさ。</p> <p>これみどりの管理課さんでも話しますけど、参加してもいいし、しなくてもいいような公共空間の使い方。</p> <p>ビアガーデンってなるとビールを飲みに行くって目的がはっきりしちゃうんですけど、そこまで縛られない方が歩いて心地いいのかもしれないですし、その何とも言えない心地よさというのを数値化できるとすごくいいなと思います。</p> <p>この後に指標の話にもなっていくと思いますが、新さっぽろではアンケートでモニタリングする予定です。そこがきちんと紐づいてくると、歩く人の満足度や幸福度、心がどのように動いてたり、そこから偶発的な出会いや先ほどのおひさしひリティなどに繋がっていく可能性があります。</p> <p>これは次の章の担い手のところで、マネジメントの話にもすごく関わってきますが、ここで描いた心が動くまちというのをどのように実現していくか、誰がどのようにしてマネジメントしていくかというところがすごく大事だと思いますので、今後の検討かなと思いました。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>御意見、御指摘ありがとうございます。まさにこの心も動くという部分の指標については、我々もここに書き込むにあたり、どのようにやっていけばいいだろうか、という部分の具体的な整理がしきれていない状況です。</p>

	<p>例えばお祭りに行った時に、近所の人と久しぶりに会うと幸福感があると思います。そういう点を具体的にスカラー量として表すのが難しく、今現状としてはなかなか思いつかないのですが、少しでも人々の心の中に沸き立つような、そんなウォーカブルの形でできればと思いますので、指標を開発する際には、また先生達の御知見もいただきながら検討してまいりたいと思います。</p>
三谷委員	<p>先ほどの林さんのコメントを受けて、心も一緒に動くまちという、キーワードいいよねっていう話があって、私も非常にそう思っております。</p> <p>重点方針も含め全体的に綺麗にまとまっておりますが、ちょっとワクワク感が足りない気もしております。</p> <p>市民の方たちにこれからどう伝えていくかというところもあると思いますが、これが実装されていくとすごくワクワクして、市民の方も外から来る方も非常に楽しめる街になっていく、市民の方々のアクションがまた周りに伝わっていって協力される方が増えていくようなイメージを持っていらっしゃるのかなと思います。</p> <p>そういったところをこのビジョンにもう少しエッセンスとして盛り込んでいって、さらにデザインとしても伝わるものにしていくとすごくいいのかなと改めて感じました。</p>
須志田 政策推進担当部長	<p>今おっしゃっていただいたものを大事にしながら、どのように紙面上に表現するかという課題があるところですが、引き続き検討していきたいと思います。ありがとうございます。</p>
有村委員長	<p>ありがとうございました。1章、2章について他ございますか。</p> <p>ちょっと私から一つだけ。先ほどの都市のアイデンティティとか国際競争力の話の中で、今ちょうど札幌都市圏に関してパーソントリップ調査が入っていきますが、市民向けのアンケートだと市民の行動は追うことはできる一方で、道外や海外から来られている人たちの滞在の状況がよくわからないんですね。</p>

	<p>そのため、先ほどデータでどういった形で追うができるかという話がありましたが、都心の部分だけでもモニタリングしていくと、どういった方々が同じ場所で同じ時間を消費しているのかとか、だからなんとなくいい雰囲気ができているんですよとか、こういったことを追えるものと思っております。</p> <p>ただ、なかなかそういう視点でデータ指標化した事例というものがないので、都心の目指す姿というところだと、いろいろ分析する必要性があるのかなと思って見ておりました。</p> <p>あと、「歩かさる」が、やはり気になります。他の町でもこれが出るわけですよね、「歩かさる」という形で。</p> <p>北海道弁を分かっている人はすぐ理解してくれると思いますが、分からぬから逆に面白いのかなというところも合わせながら考える必要があると思います。</p> <p>「～さる」というのは行動が誘導されるんですよね。だから食べらさるとか歩かさるとかっていうのは、デザインとか仕組みとかいろいろな仕掛け、アフォーダンスみたいな言葉もありますが、それと同じで、なんか食べてしまう、いつの間にか行動が誘導されているといったものを街全域に関して、なんとなく仕掛けていく。</p> <p>このビジョンの中でそこまで書くのかなというところはあります、「～さるって何？」というところを、少しあかりやすく書いてみた方が、他の都市の方々も読むと思いますので、一筆書いていただけたといいかなと思いました。この2点です。</p>
松本 総合交通計画部長	<p>1点目のパーソントリップ調査について、専門的な調査になりますが、札幌周辺の方々に特定の1日について、あなたはまずどこに行って、何の交通手段を使って、どこに移動しましたかというのを24時間分追うような調査になっております。抽出調査になりますが、20万世帯以上の方々に今アンケートを取る準備をしているところでして、有村先生に実は委員になっていただいております。</p> <p>最初に住民の方からアンケートを取ったあとに、観光調査というものを別途行う予定でおりまして、周辺の観光地に行っ</p>

	<p>て、来た方にお声掛けして、どんな手段で来ましたかとか、どこに行きますかとか、交通に関してお困りごとはないですかといった調査も今後実施する予定であります。</p> <p>その中でいろいろな課題について、都心の魅力的なものが何なのかというのを議論していきたいと考えております。</p>
有村委員長	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>それではですね、1章、2章関連でよろしいですか。以降もあれば、3章も4章に合わせてコメントいただければと思います。</p> <p>改めて3章、4章になりますけども、3章、4章に関しても、大藪委員と山崎委員からコメントをいただいているということで、事務局に御紹介いただけますでしょうか。</p>
石井 政策推進担当課長	<p>では欠席委員からのコメントということで、資料4の裏面を御覧いただけますでしょうか。左上の方に第3章、第4章と書いてあるところでございます。こちらにつきましては、両委員から複数コメントいただいておりますので、ピックアップして御紹介いたします。まず、大藪委員からは、④になりますが、データ主導型でこのビジョンを推進していくことにより、課題などの数字が向上していく様子を計測できることが重要というコメントをいただいております。</p> <p>事務局といたしましても、データを用いた効果計測は大変重要だと考えており、本市のデジタル戦略推進局とも連携して、引き続き検討を進めていきたいと考えてございます。</p> <p>また、山崎委員からは、⑦になりますが、現在でも札幌は、冬季は路肩に雪がたまり、車線が制限されることを踏まえれば、路面状況がよい夏季は車線をアクティブな交通手段や滞留空間に譲るという考え方があつてもよいだろう。冬季限定施策だけではなく、サマーストリートプログラムのように、夏季の施策を積極的に検討してもよいのではないかというコメントをいただいております。</p> <p>今後、道路空間の再配分を検討していく上で、参考にさせていただきたいと考えてございます。欠席コメントにつきまして</p>

	は、以上となります。
有村委員長	<p>いろいろ御意見ございましたけども、これらの大藪委員と山崎委員の意見も合わせながら、コメントございましたらよろしくお願ひいたします。</p> <p>私は、山崎委員の欠席コメントについて、⑦の路肩に雪が溜まって車線が制限ということで、そもそも路肩を広めに作られているのが札幌の街中の道路だとは思うのですが、冬季は渋滞してしまう状態です。</p> <p>ここについて夏は、ちゃんと自転車ですとかマイクロモビリティの方に使うような道路空間再配分を行っていくということが、このビジョンの中でも一応書かれてはいるんですよね。</p> <p>ただ、交通ネットワーク的にどう考えていくのかというところまでは、やはりこのビジョンの中から踏み込んで書けないところがあるのかなと思いながら見ていています。</p> <p>また35ページのところで、第3次都心まちづくり計画の中における主要検討路線が出てくるんですよね。その中で、こここの路線をやりますというところまでは、このビジョンの中では書けないとは思いますが、例えば今月末には、電動キックボートのLuupさんが札幌の街中で展開する予定です。</p> <p>すでにポロクルがありますが、ああいったシェアリングサービスもいくつかのNPOを交えた形で展開していくようなタイミングで入ってきてていますので、それに対するインフラが足りているかというと、足りてる感じはしておりません。</p> <p>どれくらいの精度でビジョンの中で書くかという点について、私も言いながら難しいだろうなと重々承知しておりますが、ただやはり書かないとビジョンにならないというところもあります。</p> <p>そういった交通手段の多様性に合わせたインフラ整備とその交通ネットワーク計画について、第3次都心まちづくり計画かビジョンの方で、そういったことを考えていきますという言葉があるかないかというのは違うと思いますので、どうかフォローアップいただければと思います。</p>
二宮	都心まちづくり推進室 二宮です。本書の35ページの下の

都心まちづくり推進室長	<p>方に、主要検討路線等における今後の検討の考え方と書いておりますが、この表の中で丸が記載されている通りに求められる機能や重要度等を踏まえて、地域の方、それから沿道等の関係者の方と、将来像を共有するということが、非常に重要なと思っております。</p> <p>この部分をおろそかにすると、なかなかネットワークの形成というところにもつながっていかないかなと考えておりますので、まずはこの将来像を共有して、取り組みを検討するというところから考えていきたいというのが、このまちづくり計画の中で謳えることの一定の答えであるものと現時点で考えております。</p>
松本 総合交通計画部長	<p>先ほどのパーソントリップとも絡んでLuupのお話もありましたが、交通の体系や交通手段が変化してきている中で、今時点でどのような移動の仕方をしているのかという点について、今回の調査で改めて浮き彫りにし、それを今後策定する都心まちづくり計画には間に合わないかもしれないですが、総合交通計画とか、地域公共交通計画とか、いろいろ札幌市の方でも計画・ビジョンを持っておりますので、そちらに落とし込んでいって、施策に反映していきたいと考えております。</p> <p>御指摘のとおり、電動キックボードを盛り込めていないというのはあります。シェアサイクルしか載っておりません。</p>
有村委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いろいろデータ周りを見ているのですが、札幌の人流データで、自動車と徒歩のIDがついている移動データというものがあります。すると、自動車で5分とか10分以下の短い時間しか乗ってない移動と、徒歩で15分以上20分とか、30分とか歩いている人たちの移動の行動範囲というものもある程度わかります。</p> <p>短い時間の自動車って駐車料金がかかるとか、少し面倒くさいところもあるので、そういった長い個々の移動と短い自動車の移動の重なった部分の需要に対して、シェアサイクルとかキックボードとか、新しい乗り物を展開していくような範囲に</p>

	<p>なっていくのかなと思いながら眺めております。</p> <p>今回の札幌都市圏のパーソントリップ調査を10月に実施しますが、そのデータをまた細かく見ていくと、いろいろキックボードなどのシェアリングサービスの潜在的な需要がある場所も分かってくると思います。</p> <p>例えば真駒内で本当にシェアリングサービスやりますかとか、末端駅、その周りには後背圏があるので、歩くには遠い方々もいるはずです。</p> <p>それを民間サービスで実施した時にきちんとペイするのか、NPOでやっていくのかといったところまである程度想像がついてくると思いますので、パーソンデータがまだ無い中でのビジョン検討ということで、ビジョン検討した後の分析等々でうまく活用していただければと思いながら見ているというところでした。以上です。</p>
道尾委員	<p>道尾です。第3章の具体的な取組手法にあるミューラルアートの件です。ちょうど39ページの画像にアートの様子があり、私自身も他地区で現在ミューラルアートを担当しているのですが、その経験から気付いた悩ましい点を踏まえながら、発言したいと思っています。</p> <p>都心だけでなく札幌市内で再開発等が進む中で、仮囲いの風景を多く目にすると思いますが、ミューラルアートを制作するという過程では、つまり歩道をある一定期間占用するということになります。</p> <p>これがまず悩ましいことだなと思っておりまして、工事の敷地の中で仮囲いを設置する位置について、歩道に接する道路境界線、敷地境界線ギリギリに設置されることによって、どうしてもその区間、歩道の一定面積を占有してしまうため、一般歩行者の通行確保やバリアフリーへの配慮ということがいつも問題になってしまいます。</p> <p>それからもう一点が、ミューラルアート自体が屋外広告法に引っかかる可能性があることも非常に悩ましいところでして、ここで質の高いアートとは何かとか、パブリックアートとは何なの</p>

	<p>かみたいなことのすり合わせ 자체も必要になってきます。</p> <p>また、仮囲いパネル自体に大面積アートを施すと、原状回復に高額のお金がかかるわけなんですね。敷地のオーナーであるとか、工事の施工者であるとか。そういったところが、工事期間中、パブリックな歩道として質の高い心地いい歩行空間を目指したいとなっても、コストがかかってしまう。</p> <p>手続、許認可申請で言うと、道路占用や屋外広告物としての取扱い、質の高いアート、地域連携というところの説明など、前提にするところがすごくボリュームが大きい。かといってボリュームが多いからやらなければいいのかという話になると、殺風景な工事期間中の街路が生じるという解せない状況。</p> <p>39ページにある外壁面ができたということは素晴らしい空間だと思いますが、これがただ唯一のもの、特例的な実現の事例としてではなく、都市の改変を行っていく時の一般的なやり方として普及させる上で、行政や警察などの理解を得ながら行っていくというところが、手続関連において非常に課題が大きいと感じています。</p> <p>ここが私自身も当事者でもあるので、非常に悩ましいというところで、発言しました。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>御意見ありがとうございます。ちょうど再開発がらみで、札幌駅周辺の取組みが市民の目や報道などで取り上げられていて、好意的に捉えていただいものと思っております。</p> <p>そういった中で、今お話がございましたとおり、条例、屋外広告物や占有などの手続き・許認可の部分について、我々の方で支援の方向性ということで記載しているところでございます。</p> <p>実際に行う方々が少しでもハードルを低く感じていただけるよう、このビジョンにおいて行政のやるべきこととして認識しておりますので、どのような支援の形があるかというのは当然関係部局との協議になりますが、ミューラルアートの事例が特別なものではなく、街の中に普遍的に存在している、いろんなところで見られる状況が理想的であると思います。</p> <p>今後はそのあたりも含めて検討してまいります。</p>

<p>道尾委員</p>	<p>色々なものをこれだけ大々的にやるのは奇跡的なことで、例えば街中の小学生が小学校改築のために仮囲いに思いを込めるとなっても、どんどんアートが小さくなっているんですね。</p> <p>面積の50m<sup>2</sup>規制という謎のルールがあって、それが公共性、非公共性問わないっていうところも含めてですが、遊歩道に設置するのか、道路面に設置するのか、光害に当たるところも何かあるのか、そういうようなところについて、すごく多角的な議論が必要な出来事かなと感じています。</p>
<p>泉山委員</p>	<p>具体的な取組についてですが、冒頭に取組や手法例が列挙されており、全体の関係性がやや分かりづらい印象です。冒頭に関係図や全体像のフローのようなものがあると良いのではないでしょうか。</p> <p>また、リーディングプロジェクトやモデルケースと、個別の取組手法との関係性についても整理が必要かと思います。38ページからの取組手法例を拝見した際、既存の取組との差異が埋もれてしまっているように感じました。第2章までの勢いに対して、第3章で少しトーンダウンしたような印象を受けます。札幌市の計画として市が実施すべき事項はもちろん記載されるべきですが、「産学官民連携プラットフォーム」における役割分担や、「誰がやるのか」という点について、行政だけでなく産学官民で取り組む意識が見えるような記述が重要です。</p> <p>細かい点ですが、先ほど申し上げた駐車場の話はこのあたりでも触れるべきですし、環境面では「ゼロカーボンシティ」に対して、「カーボンマイナス」への言及が少ないように感じました。また、民地へのアプローチがやや弱い印象です。例えばミューラルアートなども、工事仮囲いだけでなく、既存建築物の壁面活用なども考えられます。</p> <p>許認可に関しては、千代田区のエリアマネジメントガイドラインを取り上げていただいていますが、私が関わった経験から申し上げますと、ガイドラインが形骸化しないよう留意いただきたいです。ガイドライン策定後に、管理者の研修やマインドセッ</p>

	<p>トの醸成もセットで行わなければ、現場では実効性が伴わない懸念があります。海外では「このルール内であればできる」というポジティブなアプローチが多いですが、日本は「できない前提」になりがちですので、そのあたりの運用面の検討も必要かと思います。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>御意見、御質問ありがとうございます。重点の5つのダイアグラムとその後の具体的な取組手法などの関係性が分かりづらいとの御意見と理解しております。</p> <p>紙面都合で省略しているという部分もありますが、一連の流れが分かりやすくなるよう本書や概要版のブラッシュアップをしていきたいと思っております。</p> <p>それからリーディングプロジェクトと取組手法の違いについて、具体的な個別の場所、固有名詞や手法が記載されているかどうかという点が挙げられます。</p> <p>内容の細かい検討はこれからになりますが、Well-Moving Cityという抽象的な概念を市民が聞いて、なかなかそれをイメージで想起しづらい側面がある中で、リーディングプロジェクトとしてこの3つをイメージしていただくことによって、市民や関係者に理解しやすい取り組みにしていきたいと考えております。</p> <p>また駐車場の件はしっかりと御意見を受け止め、環境の部分については、実はこれまでの行政内部における検討の中でも非常に悩んだところで、ビジョンということで20年という比較的長期のスパン、そして移動の脱炭素化などは札幌市だけではなく世界的な課題もあるため、書かないわけにはいかないと思っております。</p> <p>今後のビジョンの策定の中で100%の答えが出せないかもしれませんですが、課題や解決のための方向性を共有したいという考え方でこちらに記載をさせていただいております。</p> <p>そして許認可でございますが、ガイドラインを作成した上で、根底の思想がしっかりと関係部局、例えば規制部局や管理部局、そして事業部局にきちんと浸透しないとなかなかうまくい</p>

	<p>かないというのは、御指摘の通りでございます。</p> <p>まずみんなが共有するものを作成し、運用していくことにしっかりと気を配りながら、今後の事業を進めていきたいと思います。</p>
有村委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私からも一点よろしいですか。今、泉山先生の方からいろいろお話しいただいたんですが、3章に入った瞬間に、ある意味、他の施策が、縦割りでやっているものをそれぞれの取組みでまとめた政策パッケージ集になっていて、若干の唐突感がある気がします。まだブラッシュアップするということですので、まとめ方の問題かなとも思っています。</p> <p>また例えば、歩くことが楽しく健康に暮らせるとかは、概要では都心、拠点、住宅で分かれてますよね。各施策が一つのカテゴリーに入るってことが多分ないと思うんですよね。</p> <p>このあと一つの施策が安心安全と、健康、両方に入っているとか、重複している部分が結構あるなというところで、無理矢理この表に入れているので、読んでいて若干の違和感があります。本書ではアイコンで都心、拠点、住宅、行政企業、地域とこの中で上の方に書かれてまして、それと同じようにですね、分け方をもう少し考えて、この施策はここの重点項目にかかるんですよという分け方もあるかなと思いながら見ていました。</p> <p>3章に関してまだまだ整備されると思いますので、いろいろ御意見いただきながらブラッシュアップしていただければと思います。以上です。</p>
須志田 政策推進担当部長	<p>御指摘ありがとうございます。今、先生がおっしゃっていただいたカテゴライズの部分については、内部の検討の中でも出てきた議論でございまして、表現方法については御指摘を踏まえて、さらにブラッシュアップしていきたいと思います。</p>
三谷委員	<p>何点かありますが、モデルケースの紹介のところで気になったところがありまして、先ほどモデルケースの紹介についての御説明をいただいたんですけれども、このモデルケースは既</p>

	<p>に札幌で実装されているものということで、そこに載せるのであれば一番最初のところに書いてあるポイントを整理して掲載することが非常に重要なと思います。</p> <p>事例としては文章で書かれていますが、大事なのはこれがなぜ実現できたのかというところだと思います。もちろん立地であったり、ステークホルダーの関係があると思うので、同じものが完全にどこでも横展開できるものではないと思います。</p> <p>しかし、今後市内各所で、実現できている事例を参考に展開していくことをこのビジョンの中で謳っていくと思いますので、改めてこの事例の中で、これが何でできたのか、逆にうまくいかなかったポイントは無かったか、そのあたりをもう少し紐解いていただいて、ここにポイントとしてしっかり書き込んでいきながら、最後の制度の方ですとか、いろんな横展開できるような材料にしていけるといいのではないかと思いました。これが1点目です。</p> <p>2点目が、大藪委員や山崎委員のコメントのとおり、これから市内各所でこのウォーカブルの取り組みを進めていく上で、どのように市民の方に知っていただか、どのように市民の方にもプレーヤーになっていただか、というところが重要だと思います。</p> <p>そういう意味で、デジタルを含めあらゆる角度から、このビジョンや方向性を市民が知れる環境をどのように作っていくか、参加できる環境を作っていくか、これから非常に重要な要素だと思います。</p> <p>これも多分最後の方になると思いますが、そのような大きな枠組みの部分を広げていくという部分を連動していく3章、4章の方も含めて繋げていけるといいと思いました。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>ありがとうございます。51ページのモデルケースにつきましては、先生に御指摘いただいた通り、モデルケースから一般化、すなわち成功要因を明確に抽出し、それを今後の支援策に繋げていくことが重要であると認識しております。現状の記載では、その部分が不明瞭でございますので、今後書き込ん</p>

	<p>でまいります。</p> <p>また、市民への周知と、主体的なプレイヤーとなっていただくことは、非常に重要な要素であると考えております。この点につきましては、先ほどの御発言にもありましたように、「ワクワクする」といった感情面への訴求や、「ついでに」といった心理的距離を縮め、参加へのハードルを下げる工夫が必要を感じております。</p> <p>加えて、より多くの方にリーチできるよう、近年のデジタル技術も活用し、広範な広報活動を展開していく方策についても、検討を進めてまいります。</p>
林委員	<p>林です。ありがとうございます。</p> <p>他の委員の皆さんとかなり重なる部分がありますが、この3章は1、2章と違って具体的な内容を書かれているので、時期をちゃんと書いておくことも必要だと思います。</p> <p>おそらく、右下のロードマップと重なってくると思いますが、今書いてある手法とか、特にリーディングプロジェクトは最初の5年の部分であって、今後20年ずっと真駒内を動かそうという話ではないと思いますので、3章の最初の方にそういうことを書いておくといいと思います。全体のロードマップの中でどこに位置付けられている取組み、手法、リーディングプロジェクトなのかというのが分かるといいと思いました。</p> <p>というのが、前提にある上で、皆さんおっしゃるように、先進性というか、そのあたりがどうなのかというところですが、三谷委員もおっしゃってましたけど、今までに検討されているところだと思うので、これはすごく重要なことだと思います。</p> <p>今これだけ公民で連携してやられているということは、機運があつてのウォーカブルビジョンだと思うので、その枠でしっかりと整理するといいと思います。今このような機運があつて、今後どのように展開していくのかというのがもしかしたら、リーディングプロジェクトだったりモデルケースだったりといった手法だと思うので、そこはもう少し時間をかけてみんなで考えていいともいいと思います。</p>

	<p>もうそれためだけのワークショップをしてもいいぐらいじゃないですか。いろんな知見を集めて、今行っていることの機運と課題とギャップを整理して、次のアクションをどうするのかというのを整理してもいいぐらいだと思っています。</p>
須志田 政策推進担当部長	<p>ありがとうございます。こちらの取組手法例の部分でございますが、今御指摘いただいたとおり、現在実施している事項、あるいは直近で具体例が確認できる事項が整理されているものであり、逆に申しますと、先進性に欠けるという点も御指摘としてあるかと思います。</p> <p>その中で、一つ重要な示唆をいただいたと認識しておりますのが、その時間軸というものを明確に整理していくことが重要であるという点でございます。ビジョンの期間がやや長期にわたるため、最終的な目標まで見通すのは難しいかもしれません、その時間軸の中で、現在進行中のもの、そして今後、中期的な視点を持って推進していくべきものを、しっかりと整理してまいりたいと考えております。</p>
林委員	<p>一点だけ、そのように整理したとして、次のリーディングプロジェクトなどがどのように決まっていくのかなどのフロー図や、新しい発想とか技術とかが多分20年間でどんどん生まれてくるということで、それを取り込む仕組みなどのフロー図も作成できるとすごくいいのではと考えております。</p> <p>先ほどのLuupの話ではないですが、あのような新しい発想が今後も増えていきますよね。でもどこに最初に相談しらたいいか分からぬという問題があった時に、とりあえずよく知つてそうな方に話を聞きに行こうと、行政の皆さんもそうなんですが、全体のビジョンをすり合わせた上で配置していくことができればいいと思いつつ、まだそこまで両者が整つてなかつたかなという印象もあります。</p> <p>今後ウォーカブルに資するような取組みが新しくどんどん生まってきた時には、受け皿というか審査までいくか分かりませんが、それを取り込むかどうかのステップやフローなども整理していくと良いのかなと思いました。</p>

<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>ありがとうございます。64ページのロードマップに記載がございますように、中期・短期で得られた実績や社会情勢の変化を踏まえ、施策の見直しを実施するとしております。</p> <p>これは、変化することを前提としており、デジタルの領域や、先ほど申し上げたモビリティの領域などは、我々が経験してきた時間軸よりも早く社会情勢が変化していく可能性があるということを、我々も強く認識しております。</p> <p>その中で、このビジョンを含め、政策の見直しを的確に行いつきたいと考えております。現時点では、この程度の意気込みしか申し上げられませんが、その点、御理解いただければと思います。</p>
<p>林委員</p>	<p>おそらく、このコンソーシアムとかプラットフォームのところを具体的にしていくと、今申し上げたことが解決してくるのかなと思いますので、誰が受け皿となって、それを実現していくかっていうところを考えていくといいかなと思いました。</p>
<p>有村委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私も同じことを思いながら64ページを見て質問しようかなと思っていたら、林さんが同じ質問してしまったということなんですけど、やっぱり各施策、どれくらいの期間で評価するかということがすごく重要と思います。</p> <p>また、3章で新規で立ち上げている施策やこの先考えていることなどもあるのかなと思います。これは新規性があるよとか、今もうすでに実施していて5年間でモニタリングしていきますよ、ですか。</p> <p>札幌市の中で政策評価委員会に近いものによるPDCAサイクルを回す仕組みがあるかと存じますが、その際、ウォーカブルビジョンの取り組みは、それ単体で評価されることになるかと思います。詳細な議論はその中ではあまり行われないですよね。</p> <p>このビジョンを運用していくにあたっては、何らかの委員会等を設置し、指標による検証や進捗状況の確認を行い、改めて全体を統括する必要が生じると考えられます。そのため、施</p>

	<p>策の進捗状況の確認をどのような体制で行うかという点については、どこかで記述する必要があると思います。</p> <p>64ページに関しては簡潔な記述に留まっており、この部分だけを見ると、何となくノーチェックであるかのような印象を受けます。これはある程度致し方ないことであるとも考えられます。結局のところ、ウォーカブルに関する議論というのは、横軸を全て串刺しにして、各課の施策の中で「これはウォーカブルに該当する」と判断できるものを集めてパッケージ化していくものですので、そこまではチェックが行われるものと思います。</p> <p>ですが、このウォーカブルビジョンという枠組みの中で見た時に、現在の札幌の状況がどうなっているのか、そして5年後を見据えた時にどのように進展していくのかという点について、受け皿やプラットフォームといった言葉、あるいはコンソーシアムなどの表現もございますが、具体的にどのような形でチェック機能を持たせるのかという点は、やはりこのビジョンの中で明記しておくべきであると考えます。</p>
泉山委員	<p>全国的にもウォーカブル施策が行政主導になりがちで、いかに「产学研官民」で推進していくかが課題だと思います。私が関わった秋葉原の事例では、ビジョン策定時に現在のプラットフォームのメンバーがいなかつたため、議論が進む中で「もう一度ビジョンを作り直そう」という状況が発生しています。議論が進めば新たなやりたいことが出てくるのは必然ですので、ある程度それを見越したビジョンにしておく必要があると考えます。</p> <p>市の計画として「市がやること」は明確に書ける一方で、他の产学研民がやりたいことは現段階では書ききれない部分があると思います。プラットフォームができた後に、多様な主体の意向を踏まえてロードマップが詳細化・発展していくことを見越し、あらかじめ整理しておくと良いのではないでしょうか。</p>
須志田 政策推進担当部長	<p>御指摘ありがとうございます。プラットフォームの構築により、例えばロードマップの解像度が向上したり、あるいはその取組みや手法、特に3章4章に記載されている事項の具体性</p>

	<p>が増すといった御意見と思います。</p> <p>現在、この文書に記載しておりますプラットフォームにつきましては、具体的な青写真が明確になっていない状況でございます。プラットフォームのアウトプットイメージ、その輪郭だけでも把握しながら、本書を作成してまいりたいと考えております。</p>
道尾委員	<p>道尾です。3章、4章になると「歩かさる」って言葉が見当たらないため、その観点、最初に謳っていたところがどこに行ってしまったのだろうと思っています。</p> <p>コンセプトのWell-Movingに関しては、いろんな取組みの中に指標化の話だつたりが出てきて、それも英語なのか、漢字なのか、括弧書きなのかとか、いろんなことがあって、そのあたりがまた整理された時に、市民に展開しやすいっていうことを目指すビジョンだつたり、札幌はやはり大都市なので、どこの区に行っても同じように相談ができるところへの嗜み碎き方、それが実装されることを非常に望んでいます。</p> <p>市民がやりたいという思いを実現できるところと、そうでないところがあるとしても、一定の市民生活のレベルとして質が高いということも都市生活においては達成されないといけないと思います。</p> <p>言葉の話と実際に理解できるというか、行政として誰でも説明ができるというようなところをよろしくお願ひします。</p>
須志田 政策推進担当部長	<p>ただ今、先生に御指摘いただいた部分ですが、現状、間に合ってない部分でございます。一方で、コピーやイメージといったものもあるため、そこはしっかりブラッシュアップをしていきたいと思います。</p> <p>そして「歩かさる」というワードにもつながるところでもあるため、その定義や意味について職員・関係する皆さまへどこまで浸透させていくか。そこは表現の仕方による部分が大きいため、しっかり検討していきたいと思います。ありがとうございます。</p>
三谷委員	<p>質問なんですが、60ページに書いてある行政の部分の中で、空間活用×官民共創のノウハウを持つ人材育成も推進し</p>

	ます、と書かれているのは素晴らしいなと思う一方で、これはどういったことをするイメージでしょうか。何かあればお聞きしてみたいなと思ったのですが、いかがでしょうか。
須志田 政策推進担当部長	<p>教育プログラムの具体的な内容までは決まっておりませんが、札幌市においては官民連携を推進する部局があるため、市民の皆さまの力を借りながら空間活用を推進し、ハード面のまちづくりだけではなく、ソフト面も盛り上げていきたいと考えております。</p> <p>ハード整備は1度作れば確かに街が変わりますが、ハードをいかに使うかという質的転換を図るには、やはりノウハウの蓄積や共有であったり、あるいはその継続性であったり、ハンドリングできる人材が必要となるため、その担い手を増やしていけるような施策を検討していきたいと思います。</p>
林委員	<p>「歩かさる」をずっと考えてたんですよね。とてもいいなと。次回の検討会までにキャラクターを作つておいていただけるといいかなと思います。何かできそうじゃないですか。スペイン語では城って言うらしいです、アルカサル。「ああ、アルカサルだ！」とか子どもが言ってくれたらいいですよね。</p> <p>いや、子どもはすごく大事だなと思っておりまして、やはり20年間のプロジェクトですので、次の世代の子がこのビジョンを手に持つことはないと思いますが、頭に入れながら次の20年間を過ごすということがすごく大事だと考えています。</p> <p>そういう意味でも、絵に描いた餅ではなくビジョンが人に浸透していくような仕掛けをこのプラットフォームでできればいいなと思っています。</p> <p>これもジャストアイディアですが、教育プログラムとの連動も面白いかなと思います。</p> <p>今、創生イーストのまちでは、探究の授業だったり、児童会館とコラボした取り組みで街歩きをしたり、歩くだけではなくプレイスメイキングの実験を小学校3、4年生と一緒に実施しています。</p> <p>あまり馬鹿にできないというか、本当に芯をついた意見を</p>

	<p>言ってきますので、それをもってエリマネ団体と行政さんが連携し、子どもが言ったことを本当に実証実験として行う。遊びじゃなくて本気で実施することがすごく大事で、子どもたちの必修科目にしてもいいぐらいだと感じながら教育委員会さんと話をしています。</p> <p>そんなふうに公共空間の活用がどんどん推進され、このウォーカブルビジョンとも調和しながら新しいまちを作っていくことができたらなと思っています。</p> <p>今まさにイーストリンクっていう団体と新渡戸遠友リビングラボっていう団体と、2つの団体で教育プログラムを実践しているんですが、実施してみるとリーダー格になるような、すごく自分ごとにするような子供も出てきますよね。こちらが本気で取り組んでいると。</p> <p>そういった子どもたちに、例えば「子どもウォーカブルアンバサダー」のような形で、海外視察にも同行してもらい、自分たちで考えた実験を積極的にまちで実行してもらうようにしても良いのではないかと、最近真剣に考えておりました。</p> <p>このビジョンを誰が主体となって実行していくかという点においては、大人だけではないのではないかというのが私の意見でした。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>御意見ありがとうございます。「ウォーカブル」という概念、あるいはこの「Well-Moving City」の実現は、林先生からも御指摘があった通り、1+1の足し算だけはない相乗効果の世界であると認識しております。そうした中で、教育という要素は非常に重要であると考えます。</p> <p>実現の難しさはありますが、若い世代の力、斬新な発想や意見を取り入れていくことは、極めて重要な視点であると、改めて御意見を伺いながら感じたところです。</p> <p>どのような形が実現可能か、皆さまのお力添えをいただきながら検討を進めてまいりたいと思います。</p>
<p>泉山委員</p>	<p>私も「歩かさる」についてですが、やはり表紙や17ページなどの主要な箇所でもっと打ち出すべきではないかと思います。</p>

	<p>「Well-Moving」も良いですが、例えば前橋市の「めぶく」のように、地域独自の言葉はシビックプライドの醸成において非常に重要です。</p> <p>その上で、「歩かさる」の伝え方は非常に重要だと感じます。「歩かさる」は良い言葉ですが、受け取り方によっては「歩かされる」という受動的、あるいは強制力があるようなニュアンスを含んでしまう可能性があります。本来、ウォーカブルの日本語訳としては「歩くことができる(Can Walk)」よりも「歩きたくなる(Want to Walk)」というニュアンスが適切と言われています。「思わず歩かさる」といった枕詞をつけるなど、単に「歩かさる」という言葉が独り歩きして誤解を生まないよう、伝え方には工夫が必要だと感じました。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>ありがとうございます。非常に重要なヒントをいただいたように思っておりまして、まさに一つ一つ思わずとか、気づいたらとか、いろんな枕詞で、我々が伝えたいイメージというのは、地域に伝わっていくものと考えております。そちらを踏まえて、検討したいと思います。</p>
<p>有村委員長</p>	<p>ありがとうございます。ほかに御意見ございませんでしょうか。</p> <p>私も「歩かさる」が気になっております。これ英語表現したらどうなるんだろうとか。受動体か、とか思いながら、受動体だと少しニュアンス違うんですよね、「歩かさる」というのは。</p> <p>まとめ14ページで出てくる「歩かさる」の今のところの素案。これが他の方が読んだときに正しく伝わるのかなというところが少し気にはなっています。</p> <p>受動的だけではなく、自分の意思で歩くという点も重要であると考えます。誘導されているような状態、つまり「～される」といった受動的な行為によって、ついそれをやってしまっている状況は、それ自体は問題ないと考えます。しかし、何となく歩いて楽しかったと感じられるような仕組みや仕掛けを、エリアとしてどのように展開していくのか、その考え方について、もう少し補足の説明があった方が良いと感じました。</p>

	<p>それからもう一点だけ。ブラタモリじゃなくて、ブラサトルがさらっと書かれているところがあって、54ページですね。まち歩き研究科ブラサトル。個人的にすごく好きなのでいいのですが、歴史とか文化とか、歩くから気がつくことっておそらくあって、自動車だと気付かないところを、歩いたり自転車で走るとわかることってたくさんありますよね。</p> <p>こういったリテラシー、その土地とか土地の歴史に関して、歩くことで勉強してくれて、野外、地域学習ができているようなことについても、先ほど林さんがおっしゃっていたような子どもたち、将来を担うリーダーたちが、そういう点も理解できるような地域学習プログラムも導入されていると、縦軸が入ってきてすごくいいのかなという印象がありました。以上です。</p>
三谷委員	<p>有村先生から英語表現の話をしましたので私もですが、今回札幌に来歩いて驚いたのが、去年も来させていただいたんですけども、去年よりもさらにインバウンドの方が多いことです。</p> <p>東京も非常に多いのですが、札幌もすごいなと思いまして、これから多分この勢いまだまだ増していくだろうなというふうに実感しました。</p> <p>そういう意味で、これからこのウォーカブルビジョンが世界に対しても発信されていくものになると思うんです。札幌の都市プランディングですとか、国際競争力をという意味で。</p> <p>そういう意味でも、海外の方が来た時にも、こういった歩いて楽しい街ということが、札幌ってそういう街なんだということが、直感的に訪れる人にもあるし、世界からも視察に来て、専門家の方も含めて、世界の都市から視察に来てもらって、今の「歩かさる」という先進性が伝わっていくところ含めて、さらにブラッシュアップしていくと非常にいいなと思いました。</p>
道尾委員	<p>第4章のところですが、地域住民等とか、大学、高校等とか、民間企業等とか、ここが実は数値が出せると感じていて、例えば地域住民だったら197万人とか、先ほどの来訪者イン</p>

	<p>バウンドだったら何人とか、それから大学高校に関しても他の北海道域にはない、北海道中の若者を集める吸引力になってるわけですよね、教育の面から考えると。</p> <p>そういう意味で、先ほどの児童会館などの役割、担い所というのはどこに入るのかというと、民間企業とも違うわけで、このプレイヤー、担い手の卵たちのことを考えると、実はこの4つだけではないのかもしれませんですね。そして数にきちんとカウントできるという要素はやはりあった方が推進力に繋がっていくのかなと思います。</p> <p>固有名称が様々にあって、それがモデルケースとしてますありますということはいいと思うのですが、このビジョンが何のためにあるかという時に、周りを大きく巻き込むことで札幌市のブランド力を高めていくことが、良いデータ・良い情報源になっていくものと思います。以上です。</p>
<p>須志田 政策推進担当部長</p>	<p>ありがとうございます。今、先生のお話を伺っていて感じたのですが、小・中学生徒の方々は、我々とは視点が異なっていると思われます。</p> <p>もちろん、割合は小さいのかもしれません、おそらく我々よりも沿道の状況をよく見ているものと思います。</p> <p>そのため、「プレイヤーの卵」という表現は、まさに言いえて妙というか、この点、特にビジョンの期間が長いことに鑑みると、「プレイヤーの卵」をどのように育成していくか、といった視点を本ビジョンにどのように反映させていくかという点について、引き続き検討してまいりたいと思います。</p>
<p>有村委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ほか御質問等ございませんでしょうか。よろしいですか。</p> <p>午後シンポジウムもありますので、そちらの方で御意見等がありましたら、どうぞ御発言ください。おおよその御意見一通り揃いましたので、このあたりで意見交換を終わらせていただきます。事務局におかれましては、ただ今出ました意見について、御対応の御検討をいただきたいと思います。</p> <p>皆さま、本日の議事進行への御協力に感謝申し上げます。</p>

	<p>以上をもちまして、私の進行をさせていただき、以降の進行は事務局にお願いいたします。</p>
<p>石井 政策推進担当課長</p>	<p>有村委員長、本日の議事進行、誠にありがとうございました。</p> <p>事務局といたしましては、令和7年度末の「(仮称) Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」策定に向けて、本日いただいた意見を踏まえながら検討を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>次回の開催は、令和8年1月頃を予定しており、改めて委員の皆さまへ日程調整の御連絡をさせていただきます。</p> <p>なお本日の資料については、ビジョン本書素案等を除いて後日、ホームページに掲載予定です。</p> <p>以上を持ちまして、本日の委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>